



矢島 渚男 選

流れ星今も戦禍に死に逝く子

神戸市 西 和代

【評】戦場でどうして子供を殺すのか。自分の子なら少しも思わず、復讐を恐れるのか？ 子供を殺すのは人類の未来を殺すこと。

終戦日テニアンになほ五千体

上尾市 松本 光弘

【評】テニアン島は玉砕したサイパン島に接するように近く、民間人を合わせ一万人以上が亡くなったようにだが、ペリリュー島同様、この島の悲劇は報道されなかった。門火焚き若き遺影の父を待つ

霧島市 内村としお

【評】戦後十年ほど田舎の高校で初めて担任を持った時、戦争で父親を失った淋しげな生徒が「割ほど居たものだった。」

原爆忌恐れおののく千羽鶴

大津市 千川 修一

逝きて知る叔父の被爆や広島忌

松江市 吉浦 増

わが庭の育てし蟬の六二つ

三原市 天崎 千寿

蟬も鳥も声潜めたる猛暑かな

越谷市 安居院半樹

猛暑なり豪雨線状降水帯

武蔵野市 相坂 康

思考力失せて残暑の昼を座す

神奈川県 中村 昌男

稚児肩に梯子をのぼり山鉦へ

下関市 栗屋 邦夫

高野ムツオ 選

被爆樹に被爆の記憶原爆忌

対馬市 神宮 齊之

【評】広島では青桐、長崎なら楠が知られるが他にも数多い。被爆しながらも再び芽吹いた樹木だ。その再生の力に感銘する。「被爆樹に」の「に」の含意を読みみたい。

かたちなきものにも影や原爆忌

横浜市 鈴木 基之

【評】原爆の影といえは、銀行入り口に焼き残された人影だが、ここでは「かたちなき」影。今も行きどころなく彷徨っている魂の影だ。ひっそりとされどしっかりと柿青し

宮崎市 長友 聖次

【評】柿は花も実も目立たない。地面に落ちていくのに気づき仰ぐと幾つも実っている。「ひっそり」「しつかり」の副詞が効果的だ。スマホより顔上げて見よ夏の雲

堺市 原山 桂子

若き日や深紅のカンナ燃ゆるよう

南足柄市 柏木 幸子

失敗の話はすむやかき水

高松市 入田 葉子

真菰出て真菰に入りぬ渡し舟

富士見市 阿部 泰夫

ひまわりやむかし健康優良児

三条市 星野 愛

船虫のほかは動かず船溜まり

東京都 吉村 恵子

トンネルを幾つ過ぎても夕焼空

東京都 松永 京子

正木ゆう子 選

麦秋や校舎の裏の思川

横浜市 栃木 安穂

【評】思川の由来は、神話の田心姫命の田と心が合わさって「思」になったという。しかしこう詠まれると、若き日の物思いや恋が連想される。季語や「裏」の一字も、よき働き。あてもなくぶらぶらでさす猛暑の日

西宮市 高崎なほみ

【評】猛暑で家に籠もる日が続く。普段なら何でもないぶらぶら歩きが無性にしたい。特別な事ではない「ぶらぶら」の素晴らしさ、再発見。朝涼しくてスクワットする余裕

神戸市 吉野 勝子

【評】どんな猛暑の日も早朝だけは清々しい。外へ出て、朝日を迎え、歩き、体操すれば、一日分の元気が湧いてくる。朝のひとときは別世界。高みなる凌霄花にも蟻の道

会津若松市 安藤 和繁

掃き出されたはえとり蜘蛛の目暮れかな

東京都 伊藤 強一

大病の後の断捨離西日さす

行橋市 野田 文子

片陰の道を歩けば遠廻り

広島市 岡部ひろ子

森ひとつ生き物めきて熱帯夜

生駒市 高橋 裕樹

炎天や熱くて辛い注文す

入間市 豊泉 繁雄

青嶺行くへこそよも実の青き

大阪府 池田 寿夫

小澤 實 選

八十年赤紙を見ず敗戦忌

川西市 除門 一喜

【評】八十年前の八月十五日以来、赤紙、召集令状を見ることはなかった。しかしながら復活させたいと願っている政治家も現れて来ているようだ。どうなっていくのか。首背中尻まで汗の流れたる

狭山市 小俣 敦美

【評】猛暑の野外で大汗をかいた。汗が塊となって、首背中尻まで流れ落ちていく。肌の触覚として、汗を捉えているのが、興味深い。片陰のキリコの街に迷ひある

大津市 星野 暁

【評】片陰は夏の午後、家並みの片側でできる影。そんな街をシュールレアリスムの画家キリコの街とたとえた。人影はほぼないだろう。昼寝覚妻は外出したようだ

筑紫野市 二宮 正博

温泉や子らの取り合う扇風機

川口市 延田 陽子

棚経の僧のちらりと見る時計

神戸市 遠藤 音々

夕立ちや突然光空を飛ぶ

狭山市 茶練児

鎖場は雲の中なり夏の槍ヶ岳

松本市 早坂 哲夫

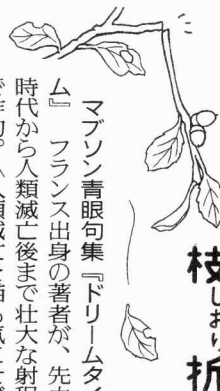
土砂降りや奥の座敷で鰻食ふ

習志野市 神鳥 文子

ステッキを西日に反す十二階

倉敷市 谷吉 修一

枝しおり 折



マブソン青眼句集『ドリームタイム』フランス出身の著者が、先史時代から人類滅亡後まで壮大な射程で作句。へ人類滅亡を猫も気にせず涼し（本阿弥書店、2200円）
藤本一城句集『紅葉川』澄明にしてぬくもりがある第2句集。ハバス停に手話のカップル秋日和（角川書店、2970円）
水村幸雄句集『実万両』卒寿を超えた著者の第2句集。生きることの喜びがにじむ。へほどほどに生きて卒寿や実万両（文学の森、2750円）
木村内子句集『金平糖』眼科医である著者の第1句集。さらりとした肌触りの句が並ぶ。へひぐらしや病みて焦らぬ日とてなし（ふらんす堂、2860円）
菅美緒句集『遊』身近な生き物へのまなざしが柔かい。へ空蟬も今日よりの友（ふらんす堂、3080円）



題字デザイン・イラスト 福田美蘭